平成 30・令和元・２年度　熊毛地区研究協力校

研　究　紀　要

【研究主題】
コミュニケーション能力の要となる言語で伝え合う力の育成
～少人数・複式における主体的・対話的で深い学びの追求を通して～

令和２年 10 月 28 日（水）

南種子町立長谷小学校

Ⅰ　研究主題

コミュニケーション能力の要となる言語で伝え合う力の育成
～少人数・複式における主体的・対話的で深い学びの追求を通して～

Ⅱ　主題設定の理由

【社会の要請から】
- 情報化やグローバル化・少子高齢化といった社会的変化
- 変化に対応し，課題に主体的に向き合い，解決していく力の育成

【学習指導要領の趣旨から】
- 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

【本校の重点課題から】
- 基礎・基本の確実な定着と思考力・表現力等の育成
- 積極的に取り組む姿勢や最後まであきらめずに粘り強く取り組む態度の育成
- 人権尊重に基づく思いやる心を育てる授業実践と全教育活動の推進

【目指す子供像＝言語で伝え合う力が身に付いた子供の姿】
- 学習課題と主体的に向かい合い，自分の考えをもつことができる子供
- 自分の考えを正確で適切に表現することができる子供
- 互いの立場や考えを尊重しながら考えを交流し，高め合うことができる子供

【児童の実態から】
- 友達と話し合うこと，自分の思いを話したり発表したりすること，友達の考えを聞くことに対して肯定的な受け止め方をしている児童が多い。
- 約４割の児童が「発表すること」の中で，自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることに苦手意識をもっている。
- 相手を見て最後までしっかり聞くなどの基本的な聞く態度が十分身に付いていない児童がいる。

【保護者の願いから】
- 自分の思いや願いをしっかりもち，相手のことを考えつつ，伝えられるようになってほしい。
- 友達同士で考えを伝え合いながらお互いに高め合えるような力や態度を身に付けてほしい。

Ⅲ　研究主題の基本的な考え方

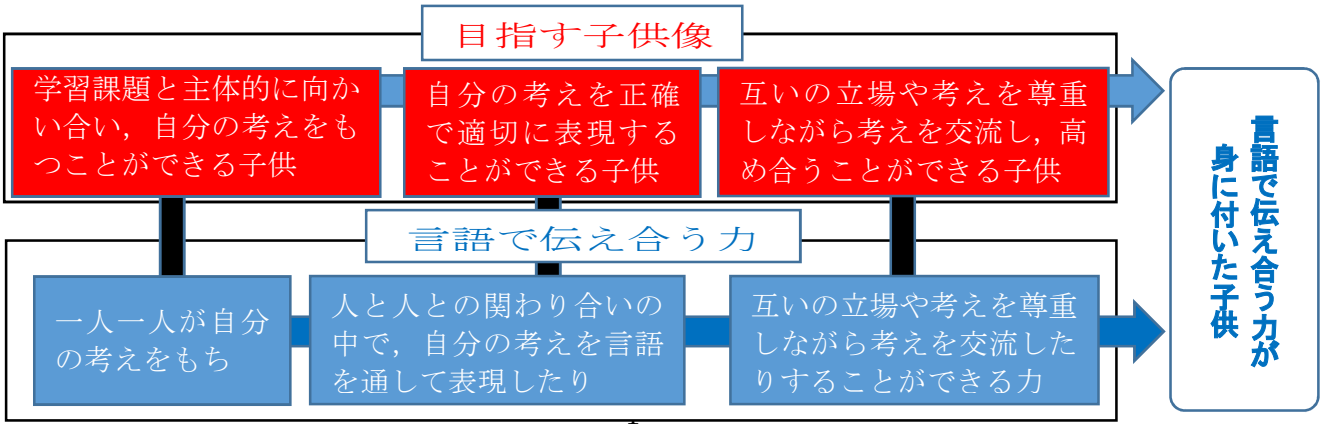
１　コミュニケーション能力及び言語で伝え合う力について

(1) **コミュニケーション能力**とは「相互関係を深め，共感しながら，人間関係を形成し，対話を通して情報を共有するとともに，自ら深く考え，相互に考えを伝え，合意形成・課題解決する能力」と捉えている。

(2) **言語で伝え合う力**とは「一人一人が自分の考えをもち，人と人との関わり合いの中で，それを言語を通して伝えたり，互いの立場や考えを尊重しながら考えを交流したりすることができる力」と捉えている。

２　言語で伝え合う力が身に付いた子供像と言語で伝え合う力との関わりについて

言語で伝え合う力とは自分自身から他者とのかかわりへと３つのステップでより高まっていくものであると考えている。そして，本校では「言語で伝え合う力が身に付いた子供像」の３項目と数のように関連付け，共通理解を図った。



Ⅳ　研究の進め方

1　研究の仮説と内容

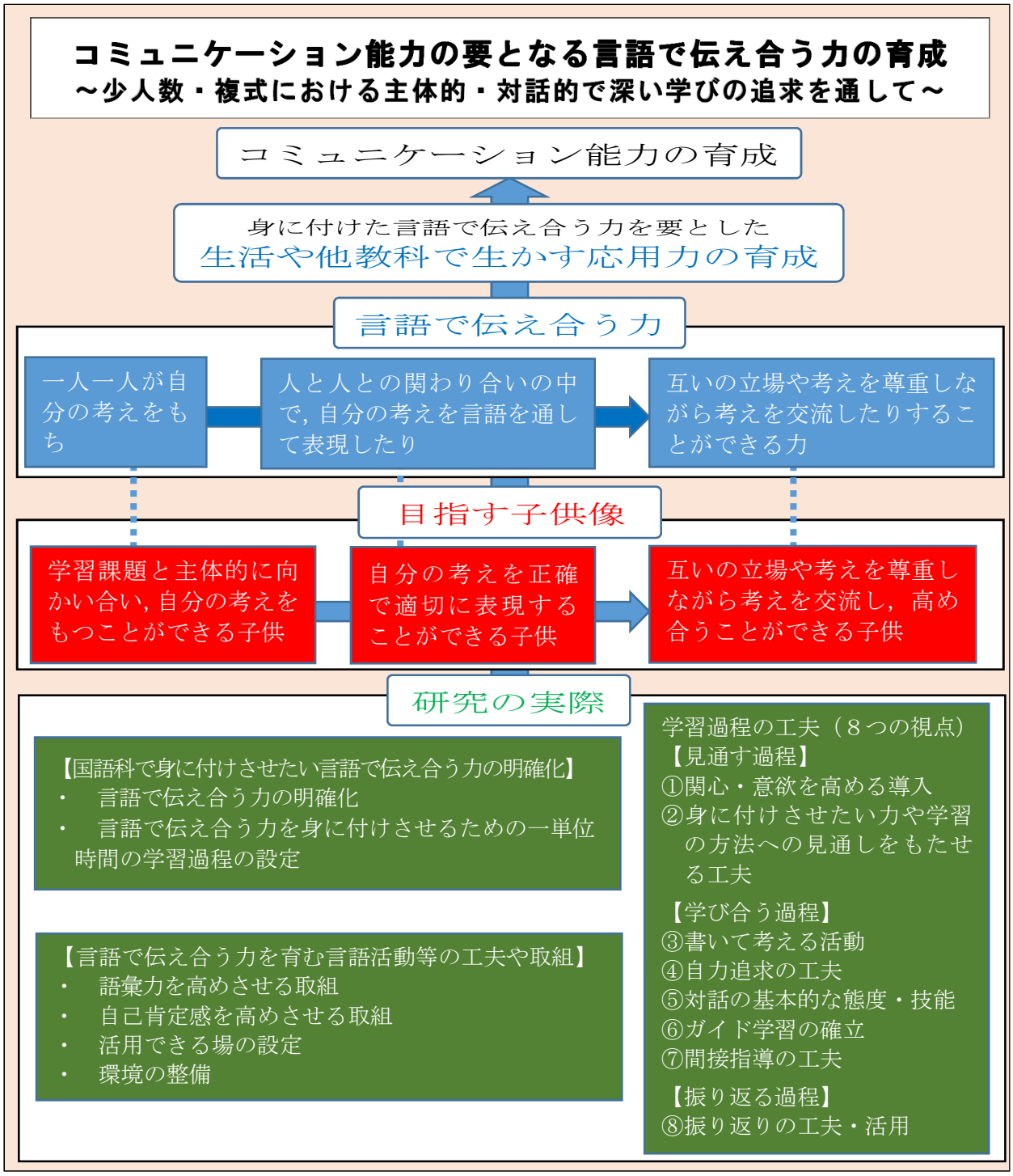
(1) 研究の仮説

　<u>言語で伝え合う力を明確にするとともに，身に付けさせた上で，自ら考え，伝え合うことができる学習過程や伝え合うための言語活動を工夫</u>したならば，言語で伝え合う力を育むことができるのではないか。

(2) 研究の内容

ア　国語科で身に付けさせたい言語で伝え合う力の明確化
イ　自ら考え，伝え合うことができる学習過程の工夫（８つの視点による授業改善）
ウ　言語で伝え合う力を育む言語活動等の工夫

(3) 研究の全体像

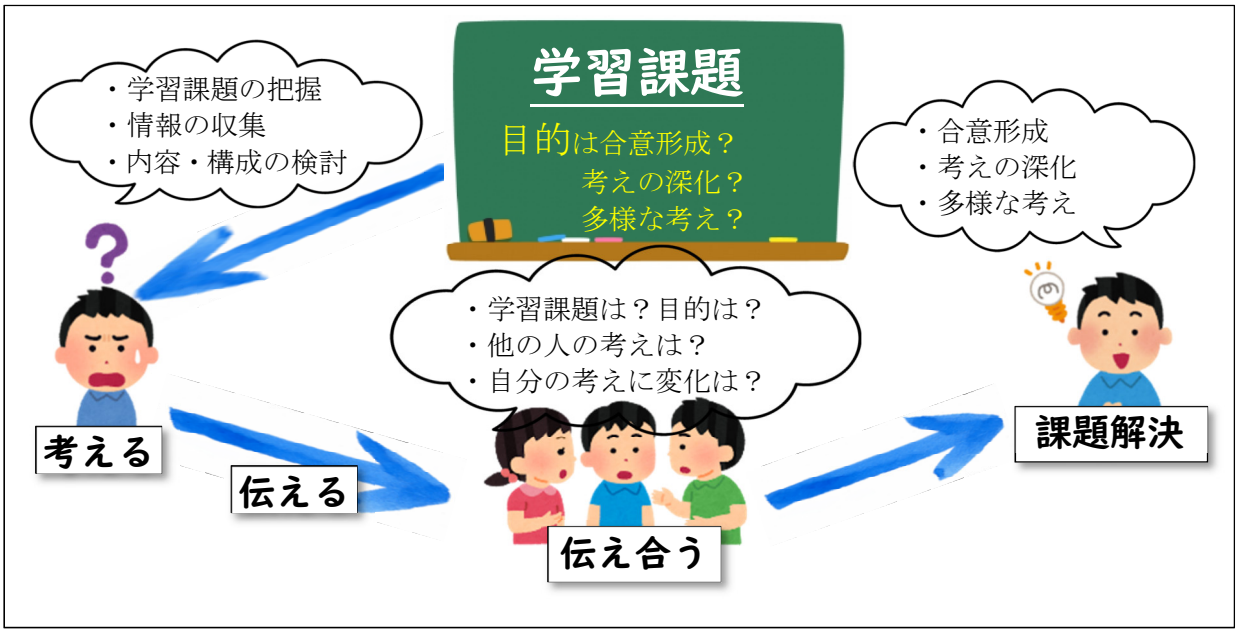


Ⅴ　研究の実際

１　国語科で身に付けさせたい言語で伝え合う力の明確化

(1) 言語で伝え合う力の明確化

言語で伝え合う学習過程を下図のように捉えた。まず学習課題は何か，伝え合いの目的は何なのかを明確にしておく必要がある。その上で課題に対して，自分自身が考えをもち，課題に対して自分の考えを整理し（考える），伝え（話す・書く），他者の考えを受け止め（聞く・読む），自分の考えと比較し，自分の考えを深めていく。そこに「互いの立場や考えを尊重する態度」が加わることで本校の目指す言語で伝え合う力が身に付くと考えた。



言語で伝え合う力について，各学習指導要領をもとに下表のように分類・整理した。表を基に縦断的・横断的に関連付けながら言語で伝え合う力について共通理解を図り，共通実践を行うことにした。

	１・２年	３・４年	５・６年
話すこと	伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さを工夫すること。	話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。	資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように工夫すること。
書くこと「記述」	語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き方を工夫すること。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き方を工夫すること。	簡単に書いたり詳しく書いたり，事実と感想，意見とを区別して書いたり，引用したり図表やグラフを用いたり，して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くこと。
聞くこと	相手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。	必要なことを記録したり，質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。	話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。
読むこと	相手が知らせたいことや自分が知りたいことを落とさないように読むこと。	相手が伝えたいことや自分が知りたいことの中心を捉えながら読むこと。	相手の目的や自分の意図に応じて文の内容を捉えながら読むこと。
話し合うこと	互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。	互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめること。	計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。

(2) 言語で伝え合う力を身に付けさせるための一単位時間の学習過程の設定

本校では，「ブラッシュアップ熊毛」を参考に，言語で伝え合う力を身に付けるための学習過程を設定した。次頁の表は，各過程の主なねらい・学習活動を具体的に示したものである。

過程	学習活動	主なねらい	伝え合う過程との関連
見通す	1 振り返り 2 学習課題の設定 3 学習方法の理解	・ 前時までの学習を振り返えらせたり，日常生活を見直させたりして学習課題につながるような課題意識や意欲をもたせる。 ・ 問題解決型の学習課題を設定し，ゴール意識をもたせ，学習方法を確かめさせる。	学習過程の設定 目的の明確化
学び合う	4 課題の追求 (1) 自力追求 (2) 相互追求 (3) 課題解決	・ 自力追求→相互追求→課題解決の基本形に沿って，自分なりの考えを特に書くことによって整理させる。 ・ 考えを伝え合い，考えを広げ・深めさせる。 ・ 相互追求を通して課題の解決を図る。	考える → 伝える 伝え合う 課題解決
振り返る	5 本時のまとめ 6 深い学び	・ 学習課題に対してまとめさせる。 ・ 自己評価や他者評価によって振り返らせる。 ・ 学習の定着を図る。 ・ 学習したことを生かす場面を設定する。	

2 学習過程の工夫(8つの視点による授業改善)

本校では言語で伝え合う力を育むために，上表に示した学習過程の各過程において８項目の授業改善の視点を設定し，指導することにした。

(1)「見通す過程」

見通す過程では，何を，どのように学び，何ができるようになるのかを明確にし，意欲的・主体的に児童が学べるように以下の２点について工夫し，実践した。

① 関心・意欲を高める導入

(例)単元のゴールを「１年生に向けて発表する」に設定する。

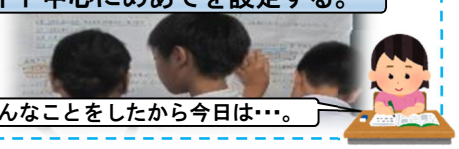
＜単元全体で＞

○ 生活経験を基に課題意識を高める工夫
○ 身に付けさせたい力を明確にした課題設定
○ 単元のゴールの活動を具体的にイメージさせる工夫
○ 学習したことを日常生活に生かすイメージをもたせる工夫

＜一単位時間の中で＞

○ 問題解決的な学習が促される課題の設定
○ 主体的に課題を設定させる工夫

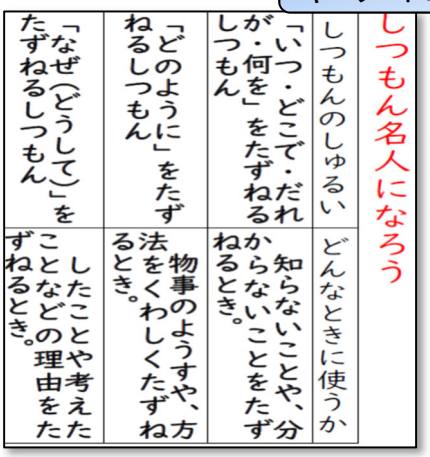
(例)ガイド中心にめあてを設定する。



② 身に付けたい力や学習の方法への見通しをもたせる工夫

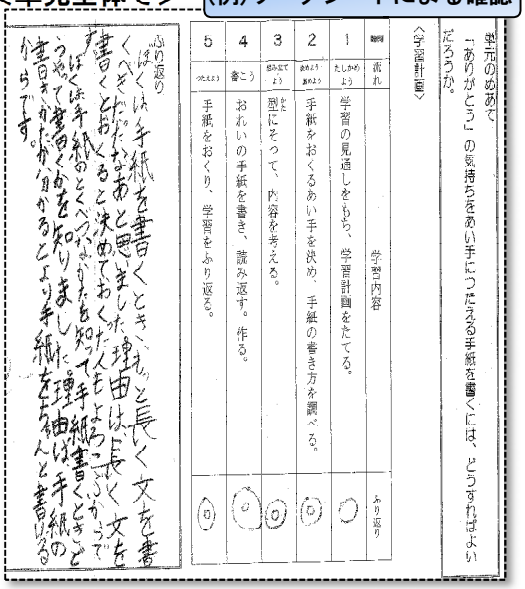
＜一単位時間の中で＞

(例)課題解決につながるキーワードの提示

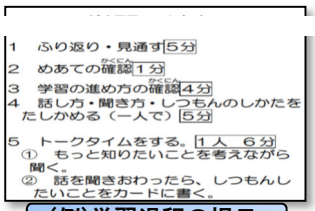


＜単元全体で＞

(例)ワークシートによる確認



単元全体を通して身に付けさせた力を単元の課題に設定し，常に振り返らせた。課題解決までの過程を１枚のワークシートとして作成（前頁図）することで，何ができるようになるのかを常に明確化できるようにした。


1　ふり返り・見通す 5分
2　めあての確認 1分
3　学習の進め方の確認 4分
4　話し方・聞き方・しつもんのしかたをたしかめる（一人で） 5分
5　トークタイムをする。 1人　6分
①　もっと知りたいことを考えながら聞く。
②　話を聞きおわったら、しつもんしたいことをカードに書く。

(例)学習過程の提示

(2) 学び合う過程の工夫

学び合う過程では，以下の５点について工夫し，実践した。特に自力追求においては自分の考えをもたせ，伝えられるようにするために書いて考える活動を位置付けた。また互いの立場や考えを尊重する態度を身に付けるために，対話の基本的な態度・技能や複式学級におけるガイド学習，間接指導の在り方についても明確にして授業を展開することにした。

③ 書いて考える活動　④ 自力追求の活動

＜考えを整理するための工夫＞

○　自力追求の手順等の提示

○　情報の精選・個に応じたワークシート等の工夫

＜考える素材・情報提供の場の工夫＞

○　参考作品・教師作モデル等の活用

○　ヒントカードの作成やヒントコーナー等の設置

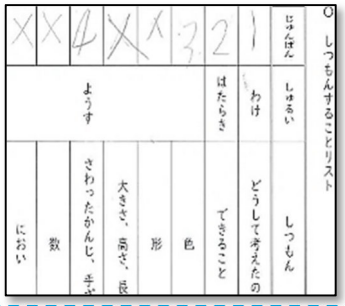
＜教師による個別指導＞

少人数のよさを生かし，一人一人が自分なりの考えに根拠や理由をもたせられるように意識した指導

(例)自力追求の方法の提示

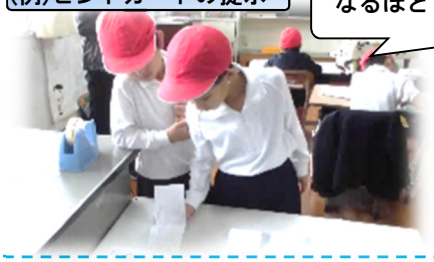
【一人調べ　十分】
一　めあてにそってサイドラインを引く。
二　サイドラインを引いたことをもとに自分の考えをまとめる。

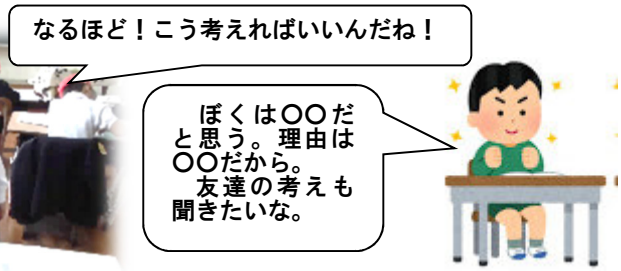
(例)自力追求に必要な情報の提示


しつもんすることリスト

じゅんばん		
1	しゅるい	しつもん
2	わけ	どうして考えたの
3	はたらき	できることはたらき
4	ようす	色
5	ようす	形
6	ようす	大きさ、高さ、長さ
7	ようす	さわったかんじ、手ざわり
8	ようす	数
9	ようす	におい

(例)ヒントカードの提示





⑤ 対話の基本的な態度・技能

＜目標設定＞

対話の基本的な態度・技能を身に付けさせるために，本校では各学年の重点目標を右のように設定し，段階的に身に付けさせられるようにした。

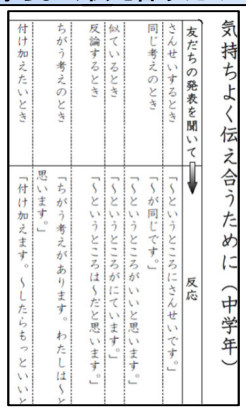
低学年	１年：はっきり話す。正しく聞く。 ２年：対話の楽しさを味わう。
中学年	３年：自分の考えをしっかりもつ。 ４年：友達の考えを取り入れる。
高学年	５年：新しい考えを共につくり出す。 ６年：深く考えよりよい考えを作り出す。

＜対話の基本的な態度・技能について＞

対話の基本的な態度・技能を身に付けさせるために，発達段階に応じた「話し方」「聞き方」「気持ちよく伝え合うために」の型を作成した。実際には教室に掲示したり，手元資料にしたりして，いつでも活用できるようにした。

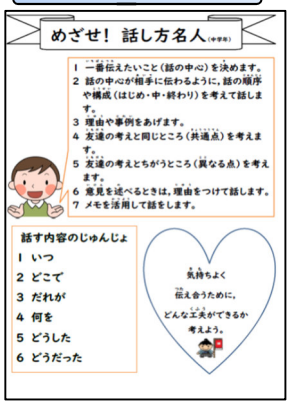
基本の型にこだわりすぎず，互いの立場や考えを尊重した対話のよさを実感させることを意識して実践することにした。

(例)気持ちよく伝え合うための話形


気持ちよく伝え合うために（中学年）

友だちの発表を聞いて	反応
さんせいするとき	「〜というところにさんせいです。」
同じ考えのとき	「〜が同じです。」 「〜というところがいいと思います。」
似ているとき	「〜というところがにています。」
反論するとき	「〜というところはしっくりこないと思います。」
ちがう考えのとき	「ちがう考えがあります。わたしは〜と思います。」
付け加えたいとき	「付け加えます。〜したらもっといいと思います。」

(例)話し方名人の提示


めざせ！ 話し方名人（中学年）

1 一番伝えたいこと（話の中心）を決めます。
2 話の中心が相手に伝わるように，話の順序や構成（はじめ・中・終わり）を考えて話します。
3 理由や事例をあげます。
4 友達の考えと同じところ（共通点）を考えます。
5 友達の考えとちがうところ（異なる点）を考えます。
6 意見を述べるときは，理由をつけて話します。
7 メモを活用して話をします。

話す内容のじゅんじょ
1 いつ
2 どこで
3 だれが
4 何を
5 どうした
6 どうだった

気持ちよく伝え合うために，どんな工夫ができるか考えよう。

⑥ ガイド学習の確立

＜ガイド学習のねらい＞
- ○　主体的・対話的に学習する態度の育成
- ○　学習の効率化と個別指導の充実

＜ガイド学習確立の手立て＞
- ○　低学年からの段階的なガイドの育成
- ○　ガイド学習の手引きの作成
- ○　ガイドの当番制
- ○　フォロワーの育成

⑦ 間接指導の工夫

- ○　指導過程の組み合わせの工夫
- ○　教師のわたりの工夫
- ○　身に付ける力を意識した明確な課題の提示
- ○　対話のゴールまでの見通しをもたせる工夫
- ○　対話をするための座席の工夫
- ○　対話時における学びの視覚化（発表ボード等の活用）

(3) 振り返る過程の工夫

振り返りの過程では，本時の学びの過程や成果を自己評価等で振り返らせることを中心に次のような工夫を行った。

⑧ 振り返りの工夫

- ○　本時の学びを一人一人具体的に（疑問・納得・理解・活用）自覚させる工夫
- ○　次時の学習への見通しをもたせる工夫
- ○　自己評価・他者評価を通して一人一人の学びの成果を確認させ，自己肯定感を高めさせる工夫
- ○　単元で身に付けた力を生かす場の設定
- ○　「学びの日常化」を目指し，家庭学習や他教科・生活の場につながるような意識付け

3　言語で伝え合う力を育む言語活動等の工夫や取組

言語で伝え合う力は，国語科の授業で身に付けた力に豊かな語彙力，高い自己肯定感が伴って発揮されると考えた。そして，言語で伝える力を高めるために，日常的な言語で伝え合う場の意図的な設定や工夫，言語環境の充実が必要であると考え，以下のような工夫や取組を行った。

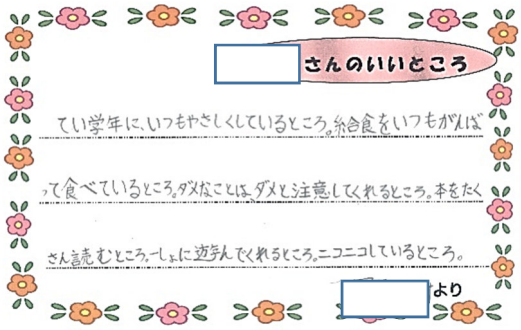
(1) 語彙力を高めさせる取組

ア　辞典や「言葉の宝箱」の活用（意味調べ・慣用句カード・日記）
イ　詩の暗唱（今月の詩・音読集・百人一首の活用）
ウ　読書活動の充実（家庭読書・保護者による読み聞かせ等）
エ　チャレンジタイムの活用と充実（名言等の活用）
オ　家庭学習との連携（音読カードの活用など）

(2) 自己肯定感を高めさせる取組

ア　朝の会・帰りの会での友達の良いところや頑張っているところの発表
イ　健康教室（毎月第２火曜日朝の時間に実施）での取組
ウ　自分や友達の良いところを記入したカードの掲示

(例)今月の詩暗唱の様子


□さんのいいところ
てい学年に、いつもやさしくしているところ。給食をいつもがんば
って食べているところ。ダメなことは、ダメと注意してくれるところ。本をたく
さん読むところ。一しょに遊んでくれるところ。ニコニコしているところ。
□より

（よかったさんの木・ほめほめシャワー）

(例)ほめほめシャワー

(3) 活用できる場の設定

ア　大勢の前で伝える場の設定

○　児童集会，児童代表・保健委員会等の集会活動

○　委員会活動等の特別活動

イ　朝の会・帰りの会での取組

○　１分間スピーチ

○　ニュースや新聞等を活用した取組

(例)健康教室での発表

(4) 環境の整備

ア　国語コーナーの設置

○　学習の意欲を高める掲示の工夫

○　既習用語の意味等の掲示

○　「聞き方」「話し方」等の掲示

○　本時の導入時での復習や既習の想起に役立つ掲示

○　作品の展示（ワークシートや作文や詩等）

イ　共同掲示スペースの活用

○　学級ごとに取り組んだもの（名言日記等）

(例)家庭教育学級の「読み聞かせ会」

Ⅵ　研究の成果と課題

1　研究の成果

○　言語で伝え合う力やそれを身に付けさせる過程を明確にした授業を通して，児童の言語で伝え合う力を高めるための授業改善を行うことができた。

○　自ら進んで学習に取り組んでいる児童が増えていることが実態調査から分かった（R1.7 実施では 75%，R2.7 実施では 88%）

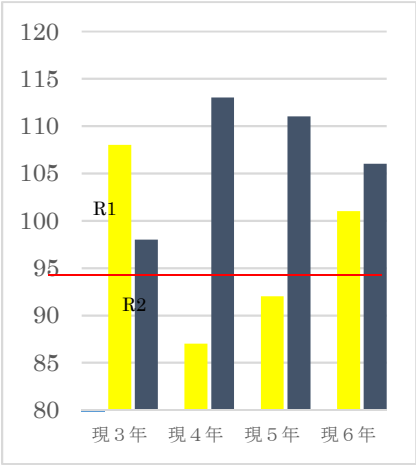
○　課題に対して自分の考えをそれぞれがもち，相手を意識して伝えようする児童が増えてきた。

○　８割以上の子供が，話し合い活動を進んで行いたいと考えていることが実態調査（R2.7 実施）から分かった。

○　NRT の結果（右グラフ）から，対話の基本的な態度・技能が身に付きつつあることが分かった。

○　伝え合いの場においてお互いの立場や考えを尊重しながら伝え合おうとするようになってきた。

話す・聞く能力の結果の比較（ＮＲＴR2.5 実施）



※　数字は全国通過率を１００とした場合の本校の通過率

2　今後の課題

○　言語で伝え合う力を更に高めていくためには，よりよい対話が生まれる授業づくりを今後も追求する必要がある。

○　言語で伝え合うことに対して苦手意識のある児童がいるので，お互いの良さを認め合い安心して話したり聞いたりできる人間関係や雰囲気を醸成し，その中で自己肯定感を高め，伝え合う力を更に育成する必要がある。

○　言語で伝え合う力を支える語彙力については，今後も多様なアプローチで更に高めさせる必要がある。

研究を通して「コミュニケーション能力の要となる言語で伝え合う力の育成」を目指した授業づくりが推進された。今後も「たくましく　自ら　あしたを拓く　長谷の子供の育成」を目指し，研究を発展させていきたい。研究に携わった多くの関係の皆様に心から感謝を申し上げます。